

2019年度 須磨学園夙川高等学校入学試験

国語

(注 意)

解答用紙は、この問題冊子の中央にはさんであります。まず、解答用紙を取り出して、
受験番号を記入しなさい。

1. すべての問題を解答しなさい。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 試験終了後、解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰りなさい。

学校法人 須磨学園 夙川高等学校



※この冊子は再生紙・大豆インクを使用しています。

一 次の各問いに答えなさい。

問一 次の中で、作者とその作品の組み合わせが正しいものを一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 清少納言——更級日記
- 2 紫式部——土佐日記
- 3 兼好法師——徒然草
- 4 紀貫之——山家集

問二 次の文章は、ある文学者についての説明である。この説明に該当する人物として正しいものを後から一つ選び、番号で答えなさい。

大正三年、雑誌「新思潮」に参加し、その翌年に『羅生門』を発表した。その後、夏目漱石に認められ、門下生の一人となった。古典の説話を題材にした作品が多く、理知的な作風が特徴である。『地獄変』、『蜘蛛の糸』、『トロツコ』などの多くのすぐれた作品を残した。

- 1 太宰治
- 2 三島由紀夫
- 3 芥川龍之介
- 4 宮沢賢治

問三 次の短歌の作者として正しいものを後から一つ選び、番号で答えなさい。

はたらけど
はたらけど
はたらけど猶わが生活楽にならざり
ちっと手を見る

- 1 正岡子規
- 2 石川啄木
- 3 与謝野晶子
- 4 斎藤茂吉

問四 次の漢詩の形式として正しいものを後から一つ選び、番号で答えなさい。

春眠不覺曉
處處聞啼鳥
夜來風雨聲
花落知多少

- 1 五言絶句
- 2 五言律詩
- 3 七言絶句
- 4 七言律詩

問五 次のA～Cの四字熟語の空欄には、共通の数字が当てはまる。その数字を算用数字(1、2、3…)で答えなさい。

- A 三寒□温
- B 朝三暮□
- C □苦八苦

問六 次の中で、三字熟語とその意味の組み合わせが正しいものを一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 門外漢——物事に対して楽観的に考える人。
- 2 試金石——得るのが難しいということ。
- 3 老婆心——子を大切に思う気持ち。
- 4 未曾有——いままでに起きたことがないこと。

問七 次の中で、敬語表現が最も適当に使われているものを一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 先生が私の友達に申し上げたことは、予想外のことだった。
- 2 先生からいただいた万年筆は、私の一生の宝物だ。
- 3 妹が新しい制服をお召しになって、嬉しそうに笑った。
- 4 先生が参る前に、教室を片付けておきましょう。

問八 ——線部の主語を後から一つ選び、番号で答えなさい。

道がつづら折りになって、いよいよ天城峠に近づいたところ、雨脚が杉の密林を白く染めながら、すさまじい早さで麓から私を追ってきた。

(川端康成『伊豆の踊子』による)

- 1 道が
- 2 天城峠に
- 3 雨脚が
- 4 麓から

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

人の目なんか気にするな、自分を信じて、自分のやりたいようにやればいい、などと言う人がいる。【①】それは正論かもしれない。人の目ばかり気にしていてもしょうがない。それはわかるんだけど、どうしても人の目を気にしてしまう。そんな人が多いはずだ。

それは当然だ。誰だって人の目は気になる。気にならないわけがない。周りの人の目に自分がどう映っているか。それは、だれにとっても大きなカンシン^a事だ。

とくに友だちからどう見られているかは最大のカンシン事と言ってよいだろう。

いつもこつちに気づくと笑顔で挨拶^{あいさつ}してくる友だちが無表情で通り過ぎると、「気づかなかったのかな」と思いつつも、「もしかして怒らせるようなことを何か言ったかなあ」と気になって仕方がない。

軽い気持ちでからかうような冗談を言ったとき、友だちがちょっとムツとした様子を見せたりすると、「うっかりギズ^bつけちゃったかな、まずいなあ」と気になってしょうがない。

このように、僕たちは、日常のあらゆる場面で、相手からどう思われているかを気にする習性を持っている。

どうしてそんなに人の目が気になるのか。それは、人の目^Aが自分の姿を映し出してくれる鏡だからだ。

だれでも自分を知りたい。そして、自分を知るためのヒントをくれるのが人の目だ。

人の目は、言ってみれば、Xのようなもの。自分の姿がYにどのように見えるのか。それを教えてくれるのが人の目だ。

あの人からどう思われているんだろう。もっと仲良くなりたいんだけど、コウイ^c的に見てくれるかな。嫌われてたらショックだな。

グループの仲間たちからどう思われているんだろう。最近個人的にちょっといろいろあって、つきあいが悪くなっちゃったけど、大丈夫かな。

部活の仲間は信頼してくれているだろうか。あまり腹を割って話すこともないんだけど、この前の試合でミスをしてしまったし、足手まといだとか思われてないだろうか。

そんなふうに、だれでも始終人の目を気にしているものだ。人の目は気になって当然なのだ。

社会学者クーリーは、自己^{じこ}というのは社会的なかかわりによって支えられており、それは他者の目に映ったものだから、「鏡映自己^{きようえいじこ}」と呼ぶことができるという。

自分の顔を直接自分で見ることはできない。鏡に映すことで初めて見るができる。鏡がなければ、自分がどんな顔をしているのかを知ることができない。

それと同じで、他者の目という鏡に映し出されない限り、僕たちは自分の人柄や能力といった内面的な特徴を知ることができない。他者の反応によって、自分の人柄^dや能力がどのように評価されているかがわかり、自分の態度や発言が適切だったかどうかを知ることができる。

鏡映自己^{きようえいじこ}という言い方には、そんな意味が込められている。僕たちの自己は、他者の目を鏡として映し出されたものだというわけだ。

自分を知るヒントとなる他者との比較の結果も、他者の目という鏡に映し出されていることが少なくない。その意味では、僕たちの自己が他者の目に映し出されたものだというのは正しいと言ってよいだろう。

【②】クーリーは、他者の目に自分がどのように映っているかを知ることによって、誇りとか屈辱のような感情が生じるといふ。これは、誰もが日常的に経験していることだ。

人からコウイ^e的に見られていることがわかれば、とてもうれしいし、自信にもなる。能力や人柄を高く評価してくれていると知れば、誇らしい気持ちになる。反対に、否定的に見られていることがわかると、ガッカリして気持ちが落ち込み、自信がなくなる。

僕たちが、とすると気の合う仲間同士、価値観や性格の合う者同士でまとまりがちなもの、周囲の人の目に映る自分の姿が肯定的なほど嬉しいし、力が湧いてくるからだ。自分の姿を輝かせてくれる鏡がほしい。それは、だれもが密^eかに望んでいることのはずだ。

ただし、嬉しいとか、落ち込むとか、感情的に反応するだけでなく、どこが評価されたんだろう、どんな点がダメなんだろうと認知的に反応できる人は、たとえ否定的評価を受けていることがわかって、今後の改善に活かすことができる。ここでいう認知的反応とは、感情的に反応するのではなく、頭で反応すること、論理的に反応することを指す。

その意味では、自分を輝かせてくれる鏡としての他者だけでなく、ときにみずばらしい自分やイヤな自分を映し出してくれる辛口の他者、価値観や性格の異なる他者とのつきあいも大切だ。そういう他者との出会いが、自分に対する気づきを与えてくれ、自分の成長^Bのきっかけになることもある。

（榎本博明^{えのもとひろあき}『「自分らしさ」って何だろう？』）

自分と向き合う心理学』による）

二の設問

問一 〜〜線部 a e のカタカナは漢字に改め、漢字はその読み方をひらがなで答えなさい。

問二 【①】、【②】に入る語句として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。

- 【①】
- 1 すなわち

2 きつと

3 たしかに

4 しかし
- 【②】
- 1 つまり

2 さらに

3 もちろん

4 ただし

問三 「人の目が自分の姿を映し出してくれる鏡だからだ」――線部 A とあるが、「人の目が自分の姿を映し出してくれる鏡」であるとはどういうことか。四十字以内で説明しなさい。

問四 空欄 X ・ Y に入る語の組み合わせとして最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 X ― マイクロコンピュータ

Y ― 相対的
- 2 X ― マイクロコンピュータ

Y ― 客観的
- 3 X ― モニターカメラ

Y ― 相対的
- 4 X ― モニターカメラ

Y ― 客観的
- 5 X ― サイドミラー

Y ― 相対的
- 6 X ― サイドミラー

Y ― 客観的

問五 「自分の成長」――線部 B とあるが、ここで筆者はどのようなことが「自分の成長」につながると考えているか。最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 不本意な評価や考え方を受け止め、冷静に考えること
- 2 自分のよくない部分について、深く自問自答すること
- 3 自分の長所を、信頼できる他者から褒めてもらうこと
- 4 気分に左右されず、相手の特徴を的確に見定めること

二の設問は裏面に続く

問六 次の文章は、対人恐怖症について書かれた文章である。

また後に続く会話文は、この文章と本文とを読んだ四人の生徒が二つの文章の内容について話している場面である。

会話文中の空欄

I

III

 に入るものと

して最も適当な組み合わせを、後の選択肢から一つ選び、番号で答えなさい。

症状が出にくく、患者にとつて楽な状況には二種類あつて、その第一は家族や気心の知れた友人など、いわゆる「身内」だけのうちにいる状況、そしてもうひとつは、逆に周囲がまったく見ず知らずの「あかの他人」だけという状況である。対人恐怖の症状は、普通、この両極端の中間の状況、つまり完全な身内でもなく、まったく無関係な他者でもないという、中途半端な顔見知りの人たちの前で、もつとも強く出現する。

（木村敏『関係としての自己』による）

生徒A——対人恐怖症って、他の人と関わる場面に對して怖さを感じてしまう状態のことだね。

生徒B——自分の言葉で相手の気分を害してしまうんじゃないかとか、人前で顔が赤くなつてしまつているんじゃないかとか、そういうことに不安を感じてしまつて聞いたことがあるよ。

生徒C——本文では、「人の目は氣になつて当然」と書いてあつたけど、この木村さんの文章を読む限り、誰の目でも同じように氣になるわけではないみたいだね。

生徒D——たしかにわかる氣がする。僕もついつい人の目が氣になつてしまうタイプだけど、

I

 からの視線はあまり氣にしたことがなかつたなあ。

生徒A——そして逆に、「

II

 」ということわざがあるように、周囲がまったく見ず知らずの人ばかりの場合も同様に人の目は氣になりにくいってことだね。

生徒C——そうだね。

III

 ということもあるよね。

生徒B——まさにその通りじゃないかな。

1 I——親友や先生

II——遠くの親類より近くの他人

III——まったく知らない相手からはいろいろ評価をされることがない

2 I——親友や先生

II——旅の恥は掻き捨て

III——二度と会わないような相手には嫌われてもシヨツクを受けなくてすむ

3 I——親友や先生

II——旅の恥は掻き捨て

III——まったく知らない相手からはいろいろ評価をされることがない

4 I——お父さんやお母さん

II——遠くの親類より近くの他人

III——まったく知らない相手からはいろいろ評価をされることがない

5 I——お父さんやお母さん

II——旅の恥は掻き捨て

III——二度と会わないような相手には嫌われてもシヨツクを受けなくてすむ

6 I——お父さんやお母さん

II——遠くの親類より近くの他人

III——二度と会わないような相手には嫌われてもシヨツクを受けなくてすむ

三

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。
(出題に際して本文の表記を一部改めている。)

(本文に至るまでのあらすじ)
江戸時代の人である杉田玄白は蘭書(オランダの書物)『ターヘルアナトミア』を手に入れた。それは人体の仕組みについて記された本で、その内容はそれまで日本で教えられていたものとは全く異なっており、玄白はその真偽を知りたいと思っていた。以下の本文は、ある建物の一室に玄白と他の医師たちが集まり、淳庵に届いた手紙を読んでいるところである。

「諸君！ およろこびなされい！ かねての宿願が、叶い申したぞ。明日、骨ケ原で腑分がある！ 腑分がある！」

彼は、喜悅の声を揚げながら、一座の者にその書状を差し示した。それは、いかにも町奉行曲淵甲斐守の家士得能万兵衛から、明四日千住骨ケ原にて、手医師何某が、腑分をすること、内報してきた書状だった。

「腑分が！ 腑分が！」

皆は、口々によるこびの声を出した。

淳庵、玄適、玄白など、オランダ流の医術に志すものにとつては、^a観臓は年来の宿願だった。が、その機会は容易に得られなかったのだ。

ことに、彼等は今日この頃、^{注3}バブルから、身体内景の有様を、新しく聞いていたので、腑分に対する宿望は、さらに油が注がれたように、燃えていた。

ことに、玄白は腑分ときくと、自分の心が、^b飛揚するのを抑えることができなかった。彼は、ターヘルアナトミアを手にして以来、腑分の日を、^c一日千秋の思いで待っていた。彼は、ターヘルアナトミアの絵図が、古人の諸説とことごとく違っているのを知っておった。彼は、それを実地に照らして、一日も早く確かめたかったのである。

一座の人々の顔は、よろこびに輝いていた。
「それでは、今夜はただちに帰宅して休息いたし、明日早天に、山谷町出口の茶屋で待ち合わせすることにいたそう」

淳庵は、座中を見まわしていった。一座は、すぐそれに同意した。

その時に、玄白の頭の中に、ふと良沢の顔が浮かんできた。彼は、良沢がやはり、観臓の希望の切なことを知っていた。一座の誰にも、劣らないほど、切なのを知っていた。たとい、良沢が、この席に居合わさずとも、明日の^{注4}一挙に洩らすべき人でないことを、感じていた。

^Bが、彼は良沢の名を、気軽に、たやすく口にする事ができなかった。その上、彼の心の一隅には、日頃彼に対して高飛車な、見下したような態度を取っている良沢が、大切な企てに洩れることを、いい見せしめだと思う心が、かすかではあるが動いていた。

それに、誰もが良沢のことに、気が付いていない以上、自分が特に注意するにも、当たらないと思っていた。

が、一座がそのままに、立ち上がりそうになると、玄白の心

は、だんだん苦しくなっていた。軽い苛責が、彼の心を鞭打った。彼は、良沢に対する自分の態度の卑しさに、気づかずにはいられなかった。

彼は、とうとう黙ってはいられなかった。

「前野氏がいる！ 前野氏がいる！ 前野氏へも、何とかいたして知らせたいものでござる」

そういったとき、玄白は自分自身、^c救われたような明るい気持ちになった。

「おお前野氏がいる！ 前野氏の事を、とんと失念いたしていた。前野氏へは、ぜひ一報いたさいで叶わぬ事じゃ」

玄適が、すぐそれに応じた。が、他の者はあまり、気が乗っているようでもなかった。淳庵は、言い訳のようにいった。

「前野氏にも、知らせとうはござるが、前野氏の麹町の住居までは、余程の道程でござる。もう、^{注5}初更も過ぎているほどに、知らすべき便はござらぬ。前野氏には、またこの次の機もござろう」

玄白は、もう黙っていようかと思った。自分の心持ちだけは、これで済んでいる。前野を、ぜひとも、明日の企てに与らせねばならぬほどの、義理も責任もないと思っていた。が、彼は自分の心の底に、良沢の来ないことを、よろこぶような心が、潜んでいることに、気付いているだけに、そのまま黙っているのが、疚しかった。

「いや、知らすべき便がないとは、限り申さぬ。本石町の木戸際には、^{注7}定めし辻籠がいることとござろう。手紙を調べ、辻籠の者に置捨にいたさすれば、念がとどかぬことはござるまい」

玄白の考えは、時に取って名案だった。

「それは、天晴のお心付きじや」

一座の者は、皆それに賛成した。玄適が、すぐ手紙を書きにかかった。

玄白は、自分で良沢を呼びながら、一方それを悔いているような心持ちが、動いていないこともなかった。が、ふと自分の持っているターヘルアナトミアのことを考えると、また別な心持ちが動いた。彼は、その珍書を、皆の前で、披露するときの、得意な心持ちを考えた。ことに、良沢の前で——いつも、それとなく気圧されているように思う良沢の前で、ターヘルアナトミアを開いて見せる自分の心持ちを考えてみた。

^D彼は、やっぱり良沢を呼んで、いい事をしたと思った。

(菊池寛『蘭学事始』による)

注1 腑分……死体を解剖すること。

注2 何某……なにがし。名前を明記せずにはかした言い方。

注3 バブル……オランダ人の医師。

注4 一挙……またとない企て。

注5 初更……現在の午後八時ごろ。

注6 便……手段。

注7 辻籠……客を乗せて運ぶ乗り物。

三の設問

問一 〜〜線部a〜cの本文中における意味として最も適当なものを、次の各群の中から、それぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。

a「観臓は年来の宿願だった」

- 1 内臓の治療は数年前からの望みであった。
- 2 内臓の治療は一年前からの望みであった。
- 3 内臓を見ることは長年の願いであった。
- 4 内臓を見ることは何年も宿泊が必要なことだった。

b「飛揚する」

- 1 飛んでどこかへ消える。
- 2 舞い上がるように高ぶる。
- 3 調子に乗って激しく動く。
- 4 夢中で一つのことを追求する。

c「一日千秋の思い」

- 1 非常に待ち遠しく思うこと。
- 2 秋の夜はとてもしばらしいということ。
- 3 秋は人々に恐れられているということ。
- 4 時間が短く感じられるということ。

問二 「腑分が！ 腑分が！」（——線部A）に込められた心

情の説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 蘭書の正しさを証明するために人体を解剖するという、禁じられた行為への恐れを皆で感じている。
- 2 良沢がいけない場で腑分を行うことによって、彼を出し抜けることへの喜びを皆で感じている。
- 3 人体の内部を探ることができる貴重な機会があることを聞き、真理に近づくことができる喜びを皆で感じている。
- 4 町奉行が自分たちの探究心に賛同してくれなかったことへの悲しみを皆で嘔み締めている。

問三 「が、彼は良沢の名を、気軽に、たやすく口にする事ができなかった」（——線部B）とあるが、この時の良沢

に対する玄白の心情の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 腑分を内報してきた功績は認めているが、自分への気遣いが足りず、孤立して困ることを強く望んでいる。
- 2 腑分に参加してしかるべき人物だと認めてはいるものの、実際に呼び寄せることにはためらいを感じている。
- 3 自分やその周囲の人間を悪く言うことに加え、町奉行の判断を批判する姿勢を気に食わないと思っている。
- 4 真理の探究への熱意は認める一方で、技術に劣る良沢を参加させることで腑分が失敗するのではと悩んでいる。

問四 「救われたような明るい気持ち」（——線部C）とあるが、玄白はどのようなことを喜んでいるのか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 周囲より先んじて発言したことで、自分は周囲より劣っているという悩みを解決できたと喜んでいる。
- 2 良沢を参加させるべきだという自分の意見を押し通したことで、後日の腑分で主導権を握れると喜んでいる。
- 3 周囲と良沢の仲があまり良くないことに気づき、両者の橋渡しができたと喜んでいる。
- 4 良沢が腑分に参加できないことを報いであると考えていた心の貧しさから離れることができたと喜んでいる。

問五 「彼は、やっぱり良沢を呼んで、いい事をしたと思った」（——線部D）とあるが、このときの玄白の心情の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 周囲に異論があったにも関わらず、腑分を良沢に知らせたことで、良沢から感謝されるだろうと満足している。
- 2 良沢を呼んだことを後悔しながらも、良心に従って行動した正しさを嘔み締めて、自分を納得させている。
- 3 自分が良沢の誤りを正す瞬間を想像し、それによって更に真理に近づけることを喜んでいる。
- 4 珍書を所有していることで、良沢に対して自分の優位を誇示できる瞬間が楽しみだと思っている。

問六 次の文章は、本文全体について説明したものである。空欄（X）・（Y）に当てはまる語として最も適当なものを、次の中から、それぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。

（X）の視点から、研究に打ち込む人々の群像を描いている。同時に、（Y）ながら他人に対する負の感情を克服しようとする個人の姿を読者に提示してもいる。

- | | | | | |
|-----|------|------|------|------|
| （X） | 1 玄白 | 2 良沢 | 3 淳庵 | 4 作者 |
| （Y） | 1 恐れ | 2 怒り | 3 悩み | 4 憎み |

四

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。
(出題に際して本文の表記を一部改めている。)

閔子騫

閔氏^{びんし}有^リ賢^ニ郎^一 何^ソ曾^{かつテ}怨^{えん}晩^{ばん}娘^{ぢやうヲ}
尊^ニ前^{メテ}留^メ母^ヲ在^リ 三^三子^子免^ル風^ニ霜^ヲ

閔子騫^B、いとけなくして母を失へり。父また妻をもとめて、二人の子をもてり。彼の妻、我が子を深く愛して、継子^{まご}を憎み、寒き冬も、蘆^{あし}の穂を取りて、着る物に入れて着せ侍る間^{あひだ}、身も冷えて耐へかねたるを見て、父、後の妻^{のち}を去らんとしければ、閔子騫^Cがいふやうには、「彼の妻を去りたらば、三人の子寒かるべし。今我一人寒きをこらへたらば、弟の二人は暖かなるべし」とて、父を諫^{いさ}めたる故^{ゆゑ}に、これを感じて、継母^{ままはは}も、後^{のち}には隔てなくいつくしみ、もとの母と同じくなれり。只^{ただ}人のよしあしは、自らの心にあると、古人の言ひ侍りけるも、ことわりとこそ思ひ侍る。

(日本古典文学大系『御伽草子』による)

問一 「三子免風霜」(——線部A)に対応するものとして

最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 父また妻をもとめて、二人の子をもてり
- 2 寒き冬も、蘆の穂を取りて、着る物に入れて着せ侍る
- 3 彼の妻を去りたらば、三人の子寒かるべし
- 4 継母も、後には隔てなくいつくしみ、もとの母と同じくなれり

問二 「いとけなくして」(——線部B)の意味として最も適

当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 幼くして
- 2 頭髪を失った
- 3 特別な意図もなく
- 4 遺言がないまま

問三 「いふやう」(——線部C)を現代仮名遣いに改め、全

てひらがなで書きなさい。

問四 本文の内容として最も適当なものを次の中から一つ選

び、番号で答えなさい。

- 1 継母は、自分の子たちには蘆の穂の入った暖かい着物を着せている間に、閔子騫には着物を着せずに凍^こえさせる嫌がらせをした。
- 2 閔子騫は自分が犠牲になっても弟たちが助かればよいと父に言つて、継母と離婚しようとする父を押しとどめた。
- 3 閔子騫が父を叱りつけたことに、継母はこの子は度胸があると感^{かん}じて、将来きつと大物になると思つて大切に育てた。
- 4 心がけ次第で人は良くも悪くもなると昔の人が言っているのは間違いだ。

問五 本文は、「二十四□□」という二十四ある話のうちの

一つを引用したものである。空欄□□に入る漢字として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 妻
- 2 孝
- 3 瞳
- 4 苦

※印の欄には記入しないこと。

		※
※	※	—
問五	問一	
問六	問二	
問七	問三	
問八	問四	

[illegible]

※					
※	※	※	※	※	※
問六	問五	問四	問三	問二	問一
X					a
Y					
					c

					※
※	※	※	※	※	
問五	問四	問三	問二	問一	

得	点
※	

受 験 番 号			